セウスベルグの飛獣騎兵

飛瀬 貴遥

セウスベルグ、と呼ばれる城塞都市（じょうさいとし）がある。

その都市は灰白色（かいはいしょく）の石で造られた建物が連なり、片流れの屋根の赤茶色が目を引いた。

建物と同じ灰白色の敷石が敷かれた通りには常緑の樹が植えられ、住居の窓際や玄関先、お店の前といったところには、色鮮やかに咲く花が飾られている。

それらのおかげか、石で包まれた都市の、無機質で堅苦しい印象が和らいでいた。

そして、都市の外側には巨大な盾があった。それがセウスベルグが城塞都市と呼ばれるようになった理由でもある。

――建物と同じ灰白色の石造りの城壁が、都市の周りを一巡しているのだ。

それは外の外敵から身を守るためのもの。

城壁の外にはなだらかな田園風景が広がっているが、そこには人に害を成す獣――魔獣と呼ばれる存在がいる。魔獣は見境なく人を襲うため、見つけたら迅速に討伐しなければならない。

だが、魔獣を捕らえて馴らすこともできる。馴らすことさえできれば人を襲うことはなくなるのだが……それは稀なことでもある。

そんな魔獣の脅威から民を守るために築き上げられた壁だが、敵は獣の他にも存在

していた。

田園のさらに先には大なり小なり国がある。セウスベルグから北へ向かうと大国アルマレクがあり、西から南にかけては大森林を挟んだ先にブリガンドがある。東には平原地帯が続き、国はないが転々と小さな村が存在している。

大国アルマレクは穏やかな国柄からか、これまでに争いが起こったことはない。しかし、ブリガンドとは折り合いが悪く何度か争いがあった。その度に、かの国は大森林を抜けて攻撃を仕掛けてきたのだ。

守りに徹している城塞都市セウスベルグであるが、外敵から身を守るための盾の他に、攻めてきた敵を迎え打ち、そして迎撃する兵団という矛が存在した。

セウスベルグ獣騎兵団（じゅうきへいだん）。

馴らした魔獣を駆使して闘う兵士の集団。

アダルベルトも、そんな獣騎兵団に所属するひとりであった。

□ ■ □

「……夢、にしては現実味があったような」